

令和8年度 大倉山小学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：21017

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
<p>◇問いを明確にし、学級全体で共有して学ぶことで、子どもたちが見通しをもって学習に取り組むことができるようになった。そのため、児童アンケートでは「勉強が楽しくて分かる」が5段階評価の4.01、「めあてをもって進んで取り組むことができた」は4.06と自己評価が高い。</p> <p>◇能動的に聞き合うことを大切にしてきたことで、「自分の考えをもち、友達の意見をしっかりと聞き合うことができた」は児童4.15と自己評価が高い。</p>	<p>◇「自分の考えをいろいろな方法で伝えることができた」については、5段階評価3.89と、他の項目に比べ低かった。方法の難しさ、伝えているという意識の低さ、自信のなさなどの要因が考えられる。</p> <p>◇表現したいと思う態度をより大切にし、表現を工夫する力を高める必要がある。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇授業や学級経営などで、能動的に聞き合うことに力を入れてきた。児童アンケートでは「友達の意見をしっかりと聞くことができた」が5段階評価の4.15と高い評価だった。自分の考えを友達やクラスみんな、先生に受け入れてもらえる安心感や聞いてもらえる満足感が自己肯定感の高まりに寄与していると考えられる。引き続き、友達の意見を能動的に聞くことを促したい。また、表現したいと思う態度を大切にし、自分の考えをいろいろな方法で伝える場をつくりたい。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自分らしく表現できる力

	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
取組	<p>◇研究主題 「自分らしく表現できる子」</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが表現したくなるような授業づくり 子どもたちの「表現したい」という態度を大切にする <p>表現したいと思う態度は、課題探求への見通しをもつことにつながる また、表現したいと思う態度は、学びに向かう力に相当すると考える</p> <p>◇研究副主題「学びの道」が見える授業</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども一人一人が解決の道筋「学びの道」を見いだすような授業づくり 学びを振り返ったときに自分が進んできた「学びの道」が足跡として見えるような授業づくり 	<p>◇行事や児童活動を「自分たちで創っていく」ものに</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な行事で、子どもが主体的に計画に関わり取り組む場面の設定 委員会活動やクラブ活動など、6年生を中心に自分たちで見通しをもって取り組む活動の充実 <p>◇自分たちの生活を振り返る場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期目標（4節）と短期目標（毎月）の活用 全校朝会や毎月の目標掲示を活用したリフレクション

〈本プログラムの実行に向けて〉

